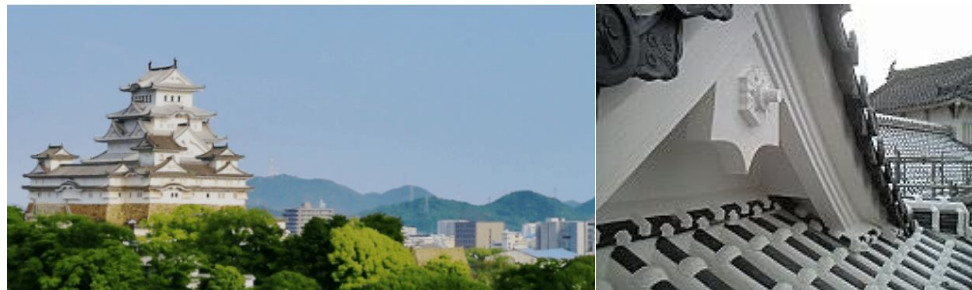




姫路市 SDGs体験型 キャリア教育プログラム

Education Program for school





『世界遺産・姫路城の建築技術に触れる』

姫路市では、教育旅行で姫路を訪れる生徒の皆様が、姫路城の修理に関わった企業からSDGsを学べる体験型教育プログラムを造成いたしました。

世界遺産・姫路城とSDGsとの関連を重視し、その歴史とともに継承されてきた職人技を体感できる、特徴的なプログラムをご提案いたします。

400年在り続ける城から学ぶサステナブル



世界遺産
姫路城の
歴史と文化

1609年江戸時代初期、五重七階の連立式天守が完成。櫓等の主要建築物が現存し、国宝や重要文化財に指定。国の特別史跡、1993年ユネスコの世界遺産(文化遺産)にも登録され、日本100名城などに選定されています。別名は白鷺城といいます。

姫路SDGs体験型キャリア教育プログラム



伝統技術と
職人技に
触れる

国内には多種多様な職人技がありますが、ここ姫路には世界遺産姫路城の修理に大きく関わった文化財修理工事という伝統技術があります。生徒達の探究心を深めます。

SDGsの
意義と必要
性を学習

SDGsの取組みを理解しづらい生徒達も、歴史・文化と伝統技術の関係を通して学習・体感することで、意義と必要性を学ぶ機会といたします。



姫路城の建築技術から学ぶSDGs

姫路城は、築城当時から現在までの度重なる修理により、美しい姿を保存しています。ただ「建て直す」のではなく、「無駄なく使う」、「修理して使い続ける」を意図した日本の伝統建築を支える建築技術(修理技術)は、文化遺産の保護のほか、持続可能な開発を目指すSDGsの取組みのヒントを含んでいます。建築技術から学べるSDGsは姫路市の特徴です。

SDGs

探究学習

キャリア教育

文化財修理とSDGs

姫路城の修理で多用された漆喰や瓦、木材は、築城当時と同じ自然素材です。

「今あるものを大切に使い続けていく」という持続可能な取り組み方で文化財を守ってきました。その豊富な経験から、SDGsを踏まえた文化遺産の守り方を学習することが出来ます。

建築技術ものづくり

姫路城の修理工事でどのような技術が使われたのか、生徒に説明いたします。

その作業の一部を実際に職人の指導の下、体験してもらうことで、職人の仕事のレベルや技術の高さを体感してもらいます。

職人の育成技術の継承

築城から400年間受け継がれてきた技術や文化を教育プログラムの中で体感し、興味を持った子供達が未来の継承者になること、またものづくりの面白さや大切さ等を学ぶことにより、将来の進路選択に役立ててもらいたいと考えています。





ものづくり体験型教育旅行プログラム

姫路市および隣接の加西市内の施設において、姫路城の歴史や文化に触れながら姫路城の修理に関わった人々と交流し、伝統的な技術を実際に体験できるプログラムです。事前学習（旅マエ）→現地学習（旅ナカ）→事後学習（旅アト）の3段階のプログラムで理解を深め、生徒ひとりひとりの『探究心』を育てます。

事前学習

旅マエ

【テーマ(問い)を設定】

- ・姫路城の歴史や文化を知る。
- ・姫路城の平成の大修理について調べる。
- ・体験プログラム実施企業について調べる。

【具体的手法】

- ・学習シートの活用
- ・現地からのオンラインメッセージ (LIVE or 録画)

現地学習

旅ナカ

【企業訪問】

- ・姫路城の修理に関わった瓦、漆喰、木材等の伝統産業施設を訪問する。
- ・姫路城で実際に工事に関わった場所の話聞く。
- ・職人さんより当時実施した作業をイメージした体験プログラムを行う。

【姫路城訪問】

- ・通常は見る事が出来ない実際の修理箇所を、説明を受けながら見学

事後学習

旅アト

【振り返り】

- ・印象に残った場面を振り返り。なぜ印象に残ったのか、職人さんの話や体験の場面を見て・感じて・考えたことを纏める。
- ・事前学習(旅マエ)で立てたテーマ(問い)の答えを導き出す。

◆SDG's探究の観点での考察

「傷んだ場合は全てを新しく作り直す」というスクラップ&ビルドの考えではなく、傷んだ部分のみを新しいものに取り換え、木造の建築を保ち続けるという「今あるものを大切に使い続ける」というサステナブルな取り組み方で文化遺産を守ろうとすることからSDGsの観点を導き出し、自身の生活の中で同様の考え方が出来る部分がないか考える。

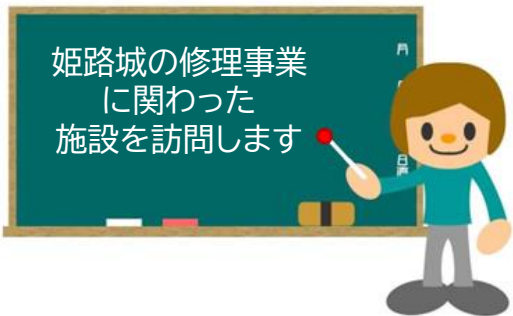
◆キャリア教育の観点での考察

企業・職人の方からのお話を聞き、世界遺産・姫路城を支え、住み続けられる街づくりにも通ずるものづくりの技術が伝承されている姿を自身の環境に置き換え、自ら受け継ぎ、未来へ引き継いでいくもの考えることで未来へのビジョンを描く機会とする。



姫路・播州ならではの体験型学習が 持続可能な社会の担い手を育てます。

文科省新学習指導要領に適応した『体験して学ぶ』プログラム。
文化財修理工事等に関わる企業で伝統技術を体験できます。



- | | |
|---|--|
| 1 | <p>光洋製瓦 株式会社
『世界遺産・姫路城の屋根と向き合う』
KAWARA職人 体験プログラム</p> <p>P.6~10</p> |
| 2 | <p>株式会社 山脇組
『世界遺産・姫路城が『白鷺城』と呼ばれる理由がココにあります！』
環境素材”漆喰”を学ぶプログラム</p> <p>P.11~15</p> |
| 3 | <p>株式会社 神田組
ものづくりの基本は「木ぐみ、人ぐみ」
～姫路城修理工事におけるチーム力と世界に誇る社寺建築の技法～
宮大工体験プログラム</p> <p>P.16~19</p> |
| 4 | <p>相生パーロン協会
『一丸となって漕ぎだそう！チームワークがカギを握る』
相生パーロン 体験乗船</p> <p>P.20~23</p> |
| 5 | <p>坊勢漁業組合
『水産資源を守る人々の想い』
離島の漁場と生活 体験プログラム</p> <p>P.24~27</p> |

【SDGs体験型学習プログラム】コース一覧

コース	施設名	行程	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
A	光洋製瓦	午前:体験学習 午後:姫路城見学		体験(光洋製瓦)		移動・昼食・移動		姫路城見学		
B	光洋製瓦	午前:姫路城見学 午後:体験		姫路城見学		移動・昼食・移動		体験(光洋製瓦)		
C	山脇組	午前:体験学習(※1) 午後:姫路城見学		体験(アクリエひめじ)		移動・昼食・移動		姫路城見学		
D	山脇組	(※2) 20名以上の場合 午前・午後入替制		体験(アクリエひめじ)		移動・昼食・移動		姫路城見学		
				姫路城見学				体験(アクリエひめじ)		
E	神田組	午前:体験学習 午後:姫路城見学		体験(神田組)		移動・昼食・移動		姫路城見学		
F	神田組	午前:姫路城見学 午後:体験		姫路城見学		移動・昼食・移動		体験(神田組)		
G	相生 パーオン協会	午前:体験学習 午後:姫路城見学		体験(相生 ^パ - ^ン 海館)		移動・昼食・移動		姫路城見学		
H	坊勢漁業組合	午前:体験学習 午後:姫路城見学		体験(坊勢島)		移動・昼食・移動		姫路城見学		

上記時間帯は参考スケジュールです。各学校様の行程において時間帯の変更等、可能な限り対応いたします。

(※1)山脇組の体験学習は、アクリエひめじ(予定)で実施します。

(※2)1回あたり20名まで(人数が多い場合は午前・午後に分割して実施となります)

【SDGs体験型学習プログラム】コースパターン例

◆行程初日(新大阪からバス利用)の例:各プログラムは90分で設定

	見学企業	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1組	神田組		バス移動		昼食	神田組	バス移動	姫路城		
2組	山脇組		バス移動		昼食	山脇組 ※アクリエひめじ	移動	姫路城		
3組	光洋製瓦									
4組	光洋製瓦		バス移動		昼食	光洋製瓦	移動	姫路城		
5組	光洋製瓦									
6組	光洋製瓦									

上記時間帯は参考スケジュールです。各学校様の行程において時間帯の変更等、可能な限り対応いたします。
山脇組の体験学習は、アクリエひめじ(予定)で実施します。



光洋製瓦株式会社

Koyoseiga Co., Ltd.

伝統のいぶし瓦を現代へ、 世界へ伝える100年の窯元。

光洋製瓦は、1920年創業の日本伝統のいぶし瓦を守りつづける窯元です。高い製造品質が認められ、世界遺産姫路城の平成の大修理の際には、瓦葺きを手掛ける一社として名を連ね、しゃちほこ(鯺瓦)も手掛けました。伝統のいぶし瓦を現代に伝えながら、いぶし銀の輝きを世界へ発信しています。



会社紹介



会社名 日本伝統いぶし瓦窯元 光洋製瓦株式会社

代表者 代表取締役 笹田奈都子

創業 大正12年3月10日

所在地 兵庫県姫路市船津町5241-5

電話番号 0792-32-5295

URL <http://koyoseiga.co.jp>

文化財・神社・仏閣・城郭・党塔等の瓦
(製造・販売・屋根葺施工)

事業概要 一般住宅の瓦(製造・販売・屋根葺施工)
観光事業
いぶし製品の製造・販売

建築業種 屋根工事業

SDGs学習内容



『いぶし瓦の特質』

土を原料とする粘土瓦である「いぶし瓦」は、銀色(いぶし銀)の美しい光沢と高い耐久性が特徴で、姫路城では、100年以上前のいぶし瓦が、今でも再利用されています。建物を美しく飾り、長く使い続けられる伝統的な材料「いぶし瓦」について学習します。

体験プログラム

- 実施可能期間: 通年(平日のみ)
1日2回 10:00~ / 13:00~
- 実施可能人数: 最小催行 10名~(一度に2クラス程度の同時実施可)
工房1テーブルあたり6~8名。
合計12テーブル(6名×9台、8名×3台)
工房2クラス、学習2クラス 最大130名
- プログラム費用: 3,630円/人(中学生、高校生)税込 ※送料含

『世界遺産・姫路城の屋根と向き合う』 KAWARA職人 体験プログラム

瓦の現状や豆知識など、めったに知る機会のない瓦についてミニ学習。
聞いて得する話や土と炎の化学の不思議など、瓦の奥深さに興味津々…。
職人が瓦について生徒に直接指導いたします。



事前学習

指導役	光洋製瓦 取締役/先生
実施場所	学校にて
実施手法	オンラインもしくはビデオメッセージ
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路城で使われている瓦について調べる。 ・姫路城の屋根にある「しゃちほこ」について調べる。
実施時期	旅行実施1か月前



■姫路城でのプログラム

専門知識研修を受けたガイドが姫路城内の大天守の一部で使用されている光洋製瓦の
いぶし瓦に関わるお話をしながら、SDGsやキャリア教育の観点を踏まえたポイントも織り
交ぜてガイドングします。



現地学習

指導役	光洋製瓦取締役/先生	
実施場所	現場(体験工房)にて	
実施手法	指導役が各テーブルを巡回して指導します。	
実施内容	①瓦の学習	瓦の現状や豆知識などを学習します。
	②瓦工場見学+瓦職人体験	稼動中の工場を見学し、瓦造りの工程を学習します。 製作中の職人に身近に触れ、一緒に瓦作りをすることでその技術を体感します。
	③瓦制作体験	鬼師や職人さんの指導を受けながら、自分の手でつくり上げる喜びを体感します。 ※指導役が各テーブルを巡回して指導します。
	④姫路城の平成の大修理について	伝統・技術を未来へ繋ぐ

■スケジュール(例)

①瓦の学習
(20分)

②瓦工場見学
瓦職人体験
(40分)

③粘土工作体験
(60分)

「しゃちほこ」を制作します。
(土練り・プレス・瓦みがき・瓦干し・窯つめ・窯出し・スス取りなど)
焼き上がった作品は学校宛に発送します



◆光洋製瓦における「体験」及び姫路城でのガイディングポイント

1. 工場・体験工房にて

①瓦の学習

瓦の現状や豆知識などを学習。

光洋瓦(姫路城で使われているいぶし瓦)と他の瓦(釉薬(ゆうやく)瓦など)の違い

②瓦工場見学+瓦職人体験

稼働中の工場を見学し、瓦造りの工程を学習。

製作中の職人に身近に触れ、一緒に瓦作り。その技術を体感。

鬼師や職人さんの指導を受けながら、自分の手でつくり上げる喜びを得る。

③姫路城の平成の大修理について

大天守の複雑な屋根を再現する苦勞

◆伝統・技術を未来へ繋ぐ

【POINT】伝統的な土葺き技術と、瓦のズレ、落下防止のための瓦棧(かわらざん)を用いた技法で、屋根の長寿命化を図る。

【POINT】瓦1枚1枚に「姫路・光洋瓦」/名前を刻む・・・職人のプライド・仕事に対するの責任感

④伝統技術の再考・進化

いぶし瓦の素材としての魅力発掘→インテリア、壁材としての価値→世界への展開(従業員の誇り)

【POINT】見方を変えることで可能性を見出す。

⑤古民家の活用、Caféの建設、寺子屋・・・地域と連携して光洋FactoryPark構想

【POINT】ものづくり→まちづくりへの進化

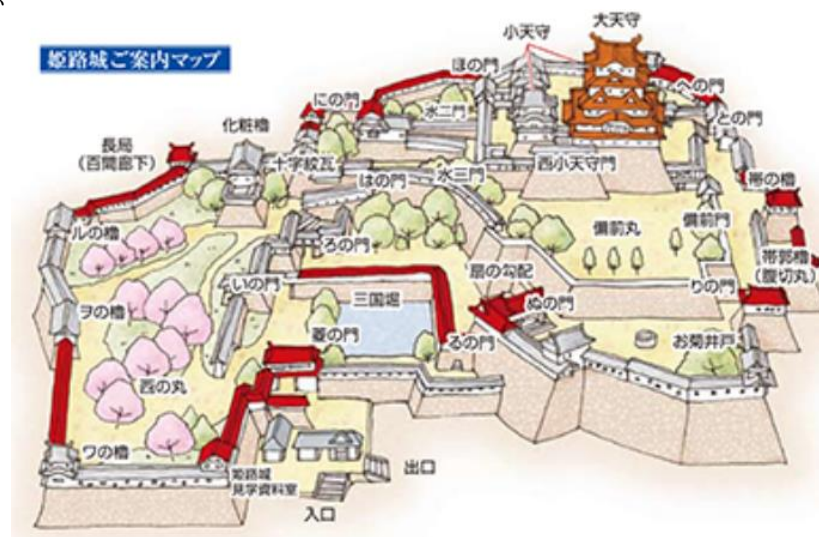
2. 姫路城にて

(研修を受けたガイドより、光洋製瓦が携わった瓦の個所を示しながら説明)

上記1. ③に基づき、平成の大修理の話(おさらい)をする

(姫路城視察が前半の班は上記POINTを説明)

- ・家紋の瓦
- ・滴水瓦(朝鮮出兵を機会に姫路城にも使われた)
- ・屋根目地漆喰(瓦と漆喰の関わり)
- ・平成の大修理で2割(15,000枚)が廃棄。
※昭和の大修理で廃棄された瓦は、溝や側溝としても再利用
- ・屋根の「反り」・・・主に瓦職人の技術で作られている。



事後学習

指導役	先生
実施場所	各学校にて
実施手法	授業
実施内容	焼き上げて送られた作品を見ながら、姫路城の工事に携わる職人さんの話を思い出し、感じたこと、学んだ内容を纏めます。
意図・目的	自身の将来の姿(仕事)について考えます。
実施時期	旅行実施後1か月半後（焼き上がった瓦を手にしながら考察）



実際の制作例





昭和の大修理を務めた 代々伝統ある左官工事業

左官とは建築物の壁塗り職人のことを指します。創業90年代々受け継がれた山脇組の伝統ある左官技術は、姫路城の漆喰壁(白漆喰)に半世紀近く携わり、また一般家屋など身近なところにも使われている幅広い業務で、後世に受け継ぐべき重要な技術です。



会社紹介



会社名	株式会社 山脇組
代表者	代表 山脇一夫
創業	昭和8年
所在地	兵庫県姫路市飯田1-24
電話番号	079-233-0268
URL	https://e-yamawaki.jp
事業概要	一般左官工事一式 / 伝統技術漆喰工事 土間仕上工事 / 一般エクステリア施工 吹付塗装工事 / リフォーム工事
建築業種	工事業、左官業

SDGs学習内容



『環境に優しい自然素材「漆喰」』

漆喰は消石灰を主原料とし、糊(海草糊など)、スサ(麻などの繊維質の材料)を加えて水で練り上げた塗り壁の材料です。調湿機能に優れていることから「呼吸」する壁と言われ、防火性が高く、古くから財産を守るため土蔵などにも使われてきました。

姫路城は漆喰壁の白さから「白鷺城」と呼ばれ、その輝きを放っています。漆喰の歴史や重要な役割などを学習します。

体験プログラム

- 実施可能期間: 4月～6月 (7月～3月末までは不可)
- 実施可能人数: 1グループあたり10名、合計4グループ(計40名)まで
(人数が多い場合は午前・午後に分けて実施します)
- プログラム費用: 1クラス分(最大40名,税込)
 - ・スタッフ原材料費(指導料含む・5名) 264,000円
 - ・会場代(アクリエひめじ)71,500円※屋外展示場の場合
 - ※40名様の場合、おひとり様あたり約8,400円

「世界遺産・姫路城が『白鷺城』と呼ばれる理由がココにあります！」 環境素材”漆喰”を学ぶプログラム

姫路城が白いことには歴史的な背景があり、とても貴重な白さなのです。
城壁の素材から白さの秘密を探りましょう。



事前学習

指導役	山脇組 代表取締役社長/先生
実施場所	学校にて
実施手法	オンラインもしくはビデオメッセージ
実施内容	漆喰の歴史を調べる。 ・漆喰がどのような素材か調べる。(他の素材と比べてどんな特徴があるか?) ・どのような建築物、美術作品で使用されているかを調べる。
実施時期	旅行実施1か月前



■姫路城でのプログラム

専門知識研修を受けたガイドが姫路城内の漆喰塗りの部分を実際に見ていただき、体験と関連したお話をしながら、SDGsやキャリア教育の観点を踏まえたポイントも織り交ぜてガイドングします。



現地学習

指導役	山脇組 代表取締役社長、社員	
実施場所	別会場(アクリエひめじ)	
実施手法	指導役が各グループ内を巡回して指導します。	
実施内容	①漆喰の学習	漆喰の特徴、漆喰が使用されている国内外の建築物、他の建築素材との違いなどについて学びます。
	②漆喰塗り作業の見学	左官職人の作業を見学します。
	③漆喰塗り体験	職人さんの指導を受けながら実際に漆喰を塗る作業を体験します。 (作業内容によりグループの代表者のみが実施する場合があります)
	④左官業界について	左官職人になるには？就職状況などを含めたお話を聞きます。

■スケジュール(例)

①漆喰の学習

漆喰がどのような素材なのか、他の素材との違いなど専門家である職人さんのお話から学びます。



②漆喰塗り作業の見学

職人さんによる漆喰を練る・塗るなどの作業の様子を見学します。



③漆喰塗り体験

職人さん指導のもと、実際に壁に漆喰を塗る作業を体験します。



(漆喰塗り体験のイメージ)

◆山脇組における「体験」及び姫路城でのガイディングポイント

1. 体験場(アクリエひめじ)にて

①山脇組の事業内容

- ・左官とは・・・3つの所説
- ・漆喰について・・・もともとはヨーロッパからシルクロードを通じて日本へとされている。
本漆喰(姫路城で使用)と土佐漆喰の違い(全く違う)

漆喰の現状や豆知識などを学習。

姫路城の漆喰の断面(大天守で30ミリ、7回工程)を見ることで修理にあたっての
試行錯誤の様子がわかる。

②本漆喰の材料について

- ・消石灰、貝灰、海藻糊、麻の4種類(市販のものとは全く違う)
- 姫路城の漆喰を長く白く維持させていくために必要な材料→年毎に入手困難に

【POINT】材料が入手困難に・・・文化財保護にとって今が危機的状況であることを認識

③漆喰塗りの体験(職人による実践、指導)を通して

技術の伝承の重要性、若い世代の力が姫路城の保全に今必要とされている



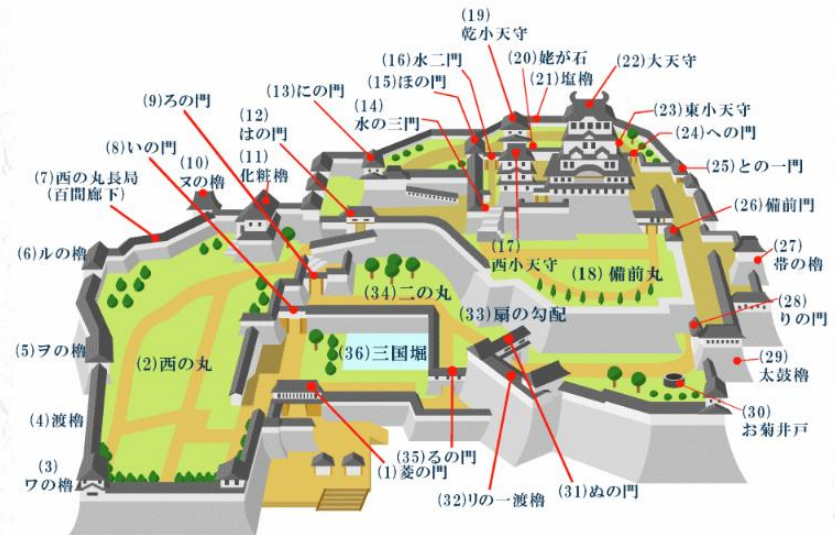
2. 姫路城にて

(研修を受けたガイドより、漆喰の工事箇所を示しながら説明)

【POINT】文化財修理のセオリーとして使えるものは極力残す。

- ・昭和と平成の2つの大修理の違い
- 昭和・・・根本的な修理(全て解体し、もと通りに組み直す)
- 平成・・・傷んだ部分のみ修理
- ・屋根目地しゅくい(瓦と漆喰の関わり)
- ・姫路城の漆喰・・・保存していくための原材料に拘った漆喰
材料の生産減少、工具生産(三木市に1人のみ)

【POINT】姫路城の保存に関わる資源(材料、人財)の危機、
みんなで文化財を守っていく意識を持つことが重要



事後学習

指導役	先生
実施場所	各学校にて
実施手法	授業
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・漆喰が使われている建築物を視察します。・姫路城の修理工事に携わる職人さんの話を思い出し、感じたこと、学んだ内容を纏めます。
意図・目的	自身の将来の姿(仕事)について考える。
実施時期	旅行実施後1か月後



(漆喰の外壁 イメージ)



伝統の技術を今に活かす。
自然に感謝し、伝統の技術と文化を
次代につなぎます。

わたしたちは、自然の恵みを得て生まれた木々の持ち味をいかし、鎌倉時代より多くの社寺建築とその時代に寄り添ってきました。近年は数多くの近代建築にもその技術は活かされており、未来を担う次世代に繋いでいきます。



会社紹介



会社名	株式会社 神田組
代表者	代表取締役社長 神田泰三
創業	昭和12年5月
所在地	兵庫県加西市山田町359番地の2
電話番号	0790-45-1230
URL	https://kandagumi.co.jp/
事業概要	寺社建築 注文建築
建築業種	総合建築業 (社寺建築・一般建築 設計施工)

SDGs学習内容



『木を見て、森を見る』

社寺建築の基となる「木材」。その木材を作り出す「木」や「森林」の知識を深め、森林資源の持続性の重要性を学習します。また、社寺建築の技術を学ぶことで、姫路城や各地の社寺がその姿を長年に渡り維持してきた秘密に迫ります。

体験プログラム

- 実施可能期間： 通年(平日のみ。2部制:10:00～/14:30～)
※職種により要調整
- 実施可能人数： 1グループあたり6～8名にて
合計6～7グループ(計40名)
- 実施費用： 2クラス分(最大80名)
 - ・スタッフ費(指導料含む・11名) 302,500円(税込)
 - ・キーホルダー材料費(80個) 11,000円(税込)
 ※80名様の場合、おひとり様あたり約3,920円

ものづくりの基本は「木ぐみ、人ぐみ」 ～姫路城修理工事におけるチーム力と世界に誇る社寺建築の技法～ 宮大工体験プログラム

釘を使わずに木で組んでいく木組みという技術、そして、人と人との信頼関係を木組みのように繋いでいく人組み、どちらも欠けてはならないものづくりの基本を学びます。



事前学習

指導役	神田組 代表取締役社長/先生
実施場所	学校にて
実施手法	オンラインもしくはビデオメッセージ(文化財の修理に関する動画)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・木材が出来るまで…森林資源について調べる。(100～200年かかる林業) ・宮大工および社寺建築について調べる。
実施時期	旅行実施1か月前



■姫路城でのプログラム

姫路城の「菱の門」工事について、施工管理業者として様々な業種の方を取り纏めたチーム力について神田組社員の方から説明を受けます。また専門知識研修を受けたガイドが姫路城内の修理工事に関わるお話をしながら、SDGsやキャリア教育の観点を踏まえたポイントも織り交ぜてガイディングします。



(菱の門)

現地学習

指導役	神田組 代表取締役社長、社員	
実施場所	神田組工場	
実施手法	指導役が各グループ内を巡回して指導します。	
実施内容	①社寺建築における「木ぐみ」について	釘を使わずに組立て、長期間建物を維持する技術を学びます。
	②展示物の説明	継手、道具、木材等の特性を学びます。
	②体験学習	キーホルダー制作体験 木材と道具に触れながら製品を作り上げ、カンナ掛け、木を切る作業、木組み等を行います。 ※指導役が各グループ内を巡回して指導します。

■スケジュール(例)

①社寺建築における「木ぐみ」について

木材同士の接合部分を凹凸に加工して組み合わせていく「木ぐみ」の工法について学びます。



②展示物の説明

生徒を半分に分け、②③を交互に体験します。

- ①のこぎり、カンナ体験
- ②キーホルダー制作体験



(イメージ)



③体験学習

キーホルダー制作体験
※当日お持ち帰り頂けます。



制作例

◆神田組における「体験」及び姫路城でのガイドングポイント

1. 本社・工場にて

①文化財の修理について

【POINT】文化財の修理は使えるものは可能な限り再利用して使用するのが基本
瓦、漆喰(材料入手が困難という点も含めて)の例

菱の門の巨大な扉の修理(閉門後入城開始までの短時間で取り付け)

②文化財の修理を通じた建設業

現場では70代から20代への技術の継承の姿が見られる。

世界遺産・姫路城の保存・修理に関わっている誇り、プライドが若者とベテランに相乗効果

【3つのポイント】職人育成、技術の伝承、資材の確保が出来ていることが
姫路城の保存・維持の理由

③社寺建築について

木材、工法、大工道具、宮大工の技術(木組み、継手、仕口)

大工の減少、社寺の今後

社寺建築に関わる材料の紹介(和釘等)で実際に触れてみて地域の寺社仏閣でも語れるうんちくとしての学び、社寺建築への興味関心へ繋ぐ

④体験について

グループ毎に「継手」を体験

どんなところで使われているか、どんな行程で作るのか?

2. 姫路城にて

姫路城での修理に関わった現場(菱の門等)付近で神田組の社員より当時の工事の様子について説明

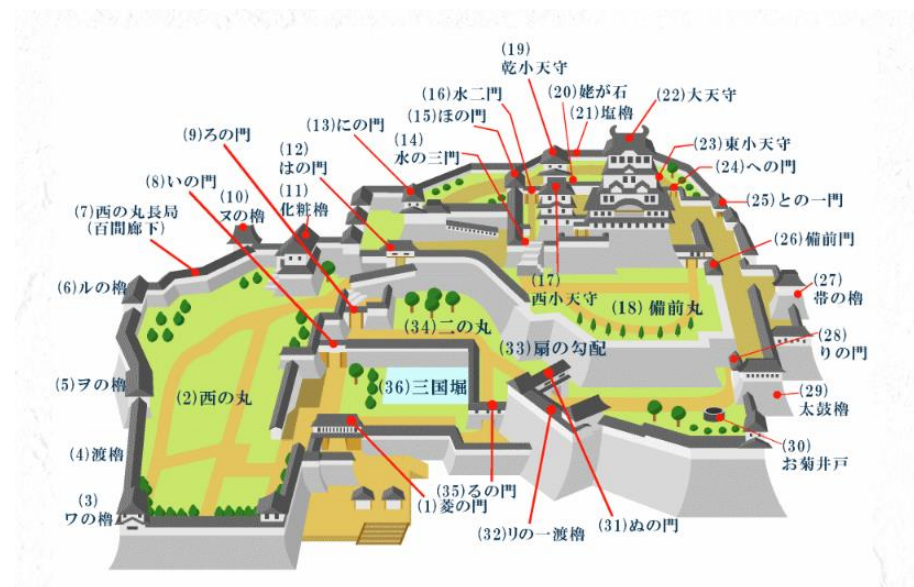
【POINT】チームを作るコツ、現代でいうプレイングマネージャーとしての苦労や解決したストーリー



研修を受けたガイドにバトンタッチ、城内工事箇所等示しながら説明)

【POINT】常にどこかで修理工事・・・技術の伝承も兼ねている

3つの課題(職人育成、技術の伝承、資材の確保)の復習



事後学習

指導役	先生
実施場所	各学校にて
実施手法	授業
実施内容	社寺建築を学んだ目線で周囲にある建築物を観察し、自身が住む地域の文化財保護について考える。
意図・目的	自身の将来の姿(仕事)について考える。
実施時期	旅行実施後1か月後



(神田組の施工実績)



チーム一体となり船を前進させる。 連帯感の育成、達成感の共有

1922年(大正11年)、長崎出身の造船業従事者により相生に伝えられた「相生ペーロン」。長さ約13mの木造和船である「ペーロン船」に32名が乗船しその速さを競います。ペーロンの歴史を学び体験することで、伝統文化を学び、参加者の団結力や連帯感などを養うことができます。



会社紹介



会社名	相生ペーロン協会(相生市地域振興課)
所在地	兵庫県相生市旭1-1-3
電話番号	0791-23-7133
URL	https://www.aioi.in/peron/

事業概要
相生ペーロン競漕の伝統と文化の継承と振興をはかることを主たる目的として設立。加盟団体に属する人々や市民相互の親睦と連帯を高め相生ペーロン祭の発展に寄与することを目的としています。

- 活動**
- ・青少年健全育成とペーロンの後継者育成を目的としたこども体験乗船を実施
 - ・こどもの日体験乗船の実施(5月5日こどもの日)
 - ・県立相生産業高校いきいき海上運動会への協力
 - ・中学生ペーロン大会の運営

SDGs学習内容



『海洋環境の現状を知り、みんなで守る』

海洋ゴミが増え、汚染が拡大していることを学び、持続的に海洋資源を得るための策を考えます。そしてペーロン船に乗って実際に海上に出ることで、海の豊かさと抱えている課題を体感し、みんなで海を守っていく意識と活動に繋がります。

体験プログラム

- 実施可能期間: 4月～10月
※ペーロン祭の準備が最盛期の4・5月は要相談
- 実施可能人数: 1隻あたりの生徒数:20名 ※最大10グループ(200名)
- プログラム費用: 体験料…1,650円/1人(保険料含む)

『一丸となって漕ぎだそう！チームワークがカギを握る』 相生ペーロン 体験乗船

ペーロン船に乗船する32名が「ドラ」「太鼓」に合わせ、お互いに励まし合い体力の限界に挑戦します。勝ち負けだけにこだわらず全員が一丸となって漕ぎ進む体験が、コミュニケーションやチームづくりに繋がる体験型プログラムです。



事前学習

指導役	相生ペーロン協会スタッフ/先生
実施場所	学校にて
実施手法	オンラインもしくはビデオメッセージ(ペーロンの伝来に関する動画)
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 相生での造船業の歴史を調べる 相生にペーロンが伝わった歴史について調べる
実施時期	旅行実施1か月前



2023年「相生ペーロン祭」のチラシ・ホームページ



現地学習

指導役	相生ペーロン協会スタッフ、社員	
実施場所	相生ペーロン海館	
実施手法	指導役が各グループ内を巡回して指導します。	
実施内容	①ペーロンについて	歴史、地域との関わり、船と櫂の役割を学びます。
	②海洋環境について学ぶ	
	②体験学習(模擬レース)	実際に漕ぐ体験を通じて、チームワークの取り方を学び、一体感や仲間意識について考えます。 ※乗船スタッフとして舵取り1名、指導員1または4名が同乗します。

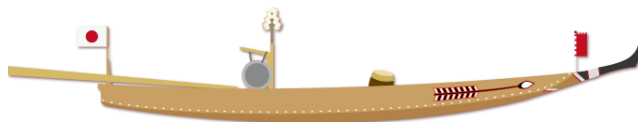
■スケジュール(例)



ペーロンの歴史/漕ぎ方
銅鑼・太鼓の指導
指導員紹介
準備体操、諸注意



救命胴衣着用
乗船
漕ぎ体験(模擬レース)



救命胴衣脱衣
櫂片付け

体験者の感想

※幼児・小学生・中学生は、救命胴衣の着用が必要です。(貸出し無料)
※救助、連絡等のためモーターボートが1艇伴奏します。
※撮影者・保護者等 若干名の乗船も可能です。



事後学習

指導役	先生
実施場所	各学校にて
実施手法	授業
実施内容	ペーロン体験を通じて、チームとして一体になる重要性と自分の住む街に根差した文化や風習について考えます。
意図・目的	自身の将来の姿(仕事)について考えます。
実施時期	旅行実施後1か月後





坊勢漁業協同組合

Bose Fishermen's Cooperative

瀬戸内海に浮かぶ小さな島 坊勢で豊かな漁業を体感する。

総漁船数およそ900隻の坊勢島は、1つの漁港あたりの漁船数が日本一とされています。
坊勢島の発展には、日々の生産努力と資源管理、自主規制、直売所の運営や後継者の育成等が基盤となっています。
離島ならではの豊かな漁業を学ぶことができます。



会社紹介

会社名 坊勢漁業協同組合

代表理事 竹中 太作

設立 昭和19年2月10日

所在地 兵庫県姫路市家島町坊勢697

電話番号 079-326-0231(代)

URL <https://boze.or.jp>

事業概要
組合運営
漁港整備
漁業見学・体験ツアーの実施
直売所「姫路まえどれ市場」の運営

組合員数 446名(2023年現在)

SDGs学習内容



『水産資源の現状や取組事例』

水産資源と環境に配慮し、漁獲量など定められたルールを守り、資源保護に向けた活動など、坊勢島が取り組んでいる持続可能な水産業を学習します。

体験プログラム

- 実施可能期間： 4月～11月(12月～3月は不可)
- 実施可能人数： 50名程度(50名以上も相談可)
- プログラム費用： 「稚魚育成中間施設見学と島内巡り」(昼食代別途)
30名まで 130,000円(税込)
31～40名まで 1名につき2,500円追加
41～50名まで 1名につき2,000円追加

『水産資源を守る人々の思い』 離島の漁場と生活 体験プログラム

坊勢漁港が長年取り組んできたさまざまな水産資源の守り方を知り、海と共存する人々の暮らしを垣間見ること、持続可能な水産業について学びます。



事前学習

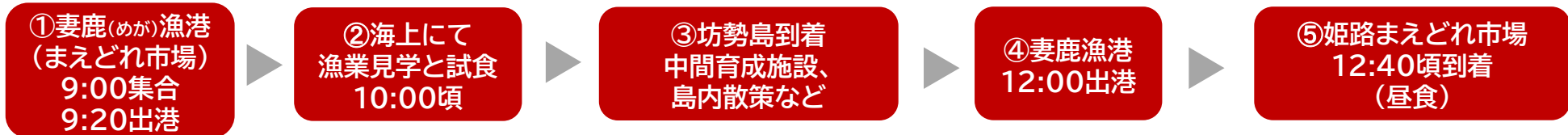
指導役	坊勢漁業協同組合/先生
実施場所	学校にて
実施手法	オンラインもしくはビデオメッセージ
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・坊勢島について知る ・坊勢漁港で獲れる海産物や漁業種類について調べます。 ・水産資源を守るための活動について調べる
実施時期	旅行実施1か月前



現地学習

指導役	坊勢漁業協同組合/先生	
実施場所	坊勢漁協稚魚育成中間施設 および 島内	
実施手法	施設を見学後、グループに分かれて島内を歩いて見学します。	
実施内容	①施設の説明、見学	稚魚を育て海に放流する資源の維持増大について学びます。
	②坊勢漁港の歴史について	坊勢島での漁業にまつわる歴史を学びます。
	③島内見学	漁業、漁村の暮らしに触れたり、島を守る神社などを訪問します。
	④漁業と直売所の関係	直売所「姫路まえどれ市場」の役割

■スケジュール(例)



漁業見学船「第八ふじなみ」に乗船します



漁業見学(イメージ)



坊勢漁協稚魚育成中間施設

島内(イメージ)



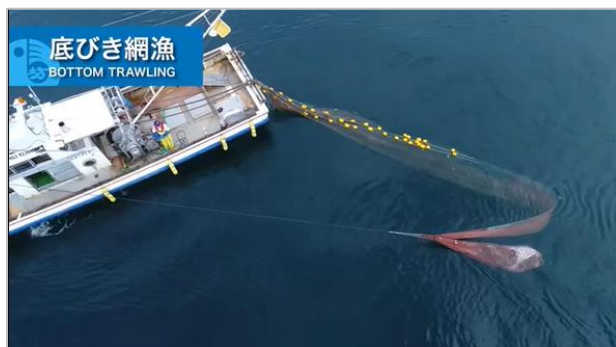
姫路まえどれ市場



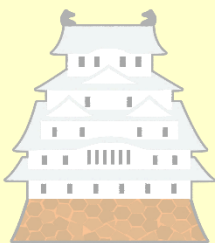
昼食は定食またはBBQとなります

事後学習

指導役	先生
実施場所	各学校にて
実施手法	授業
実施内容	坊勢島民の漁業に対する姿勢や、水産資源保全に関する取組みを振り返ります。
意図・目的	実際に見聞きした、坊勢島の漁業関係者が取り組んでいる活動を、持続可能な水産業の観点から学びます。 また、次世代の担い手として自分の将来(仕事)について考えます。
実施時期	旅行実施1か月後



漁の様子(イメージ)



お問合せ先

姫路市 SDGs体験型キャリア教育プログラムについてのお問合せは下記までご連絡ください。

内容に関するお問い合わせ先

公益社団法人 姫路観光コンベンションビューロー

所在地 〒670-0012 姫路市本町68番地

電話番号 079-222-2285

FAX 079-222-2410

Email info@himeji-kanko.jp

URL <http://www.himeji-kanko.jp>



プログラムのお申込先

姫路ランドオペレーションセンター(事務局:JTB姫路支店内)

所在地 〒670-0962 姫路市南駅前町100 パラシオ2 二階

電話番号 079-289-2120

Email s_wakatabe789@jtb.com

URL <https://branch.jtbbwt.com/j6653-0>

